

附属学校最新情報紹介

学校名	信州大学教育学部附属長野中学校		
役職	副校長	氏名	畑 邦弘
活動名	「キャリア×STEAM」の学習による新たなカリキュラム開発 ～教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメント～		

令和5年度、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした「あさひのプロジェクト」の活動の様子をまとめた『「あさひのプロジェクト」成果報告書』を発刊しました。ご興味のある方は、本校代表メール(nc_daihyo@shinshu-u.ac.jp)までご連絡ください。



「あさひのプロジェクト」成果報告書



チームごとの活動報告



各学年の総合的な学習の時間の様子



附属長野中学校の一年間の様子

【あさひのプロジェクトの概要】

本校では、中学校学習指導要領（平成29年告示）の前文に示されている生徒の姿を、「様々な社会変化を乗り越えた持続可能な社会を目指して、豊かな人生を創造していこうとするために、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な他者と協働しながら学べる生徒」と捉え、その姿を具現するためには「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成する新たなカリキュラム開発が必要であると考えました。そして、2030年問題などの現代的な諸課題に対応できる「キャリア教育」と、社会の一員として自覚や将来への見通しをもてるよう実生活・実社会のニーズを知る・解決していく「STEAM教育」が必要と考え、令和5年度より「キャリア×STEAM」の学習による新たなカリキュラム開発～教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメント～の研究を進めています。

令和5年度は、研究1年次として、教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメントの提案するために、カリキュラム開発の軸となる次の三つの学習へのアプローチを構想しました。

- I：教科・アプローチ（教科等の学習） → 各教科等の本質に迫る学習
- II：プル・アプローチ（教科横断型の学習） → 生徒の中に潜在する教科横断的な視点を引き出す学習
- III：プッシュ・アプローチ（社会参画型の学習） → 実生活・実社会の諸課題を解決していく学習

その中で、III：プッシュ・アプローチの学習として、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした「あさひのプロジェクト」を設定しました。

「あさひのプロジェクト」での活動を始めるにあたり、社会貢献をテーマに生徒の「やってみたい！」を具現化し、主体的に探究活動を始められるように、#（ハッシュタグ）によるチーム分けを行いました。

そこでは、実生活・実社会の諸課題に対して、生徒が「やりたい活動」と関わりそうな「職種」について、生徒の記述を基に教師が関連する#を決め出し、生徒が一番近いと思う#を選び、同じ#を選んだ生徒同士で集まり、活動の検討を繰り返す行方場を位置付けました。この位置付けによって、活動内容の見通しがより具体的になり、計36の活動が提案されました。その後、生徒の提案者が立ち上げた36活動《プロジェクト型》と企業からの提案された5活動《ミッション型》の一覧を生徒に提示し、参加したいチームを選択する場を設定したところ、25活動《プロジェクト型》と4活動《ミッション型》の計29チームが編成されました。



ハッシュタグの例

- #地域貢献 #商品開発 #デザイン #情報発信 #環境問題 #エネルギー #教育 #食糧問題
- #イベント運営 #社会問題 #運輸 #スポーツ #ボランティア #ものづくり #テクノロジー

また、生徒が、地域や企業などの実社会に関わりながら課題解決に向けて探究を進めていくために、本校では、以下のような機会を年間行事に位置付けました。

【探究の日】	年間8回程度、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、午後の日課をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【ヒューマン・ウィーク】 (以後、H・Wと表記する)	本校が行っている総合的な学習の時間のカリキュラムの一つで、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、7月の約一週間（令和5年度は4日間）をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【東京研修旅行】 ※3学年のみ実施	「あさひのプロジェクト」の活動を充実させるために、H・Wの後半2日間を東京研修旅行の時間に充て、東京にて企業訪問や実施調査する時間と定めた日。
【成果発表会】 ※探究の日に実施	年間3回程度、自分たちの活動の意義や目的を客観的に確認するために、探究の日を成果発表会に充て、異学年の生徒や保護者、地域・企業の方々との活動についての情報交換する時間と定めた日。

